

**阿蘇山 —2007年10月～2008年1月—**  
**Volcanic Activity of Aso Volcano, October 2007 — January 2008**

福岡管区气象台 火山監視・情報センター  
阿蘇山測候所  
Volcanic Observation and Information Center,  
Fukuoka District Meteorological Observatory, JMA  
Asosan Weather Station, JMA

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。  
火口付近では引き続き火山ガスに対する注意が必要である。  
平成19年12月1日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表した。  
その後、予報警報事項に変更はない。

○ 概況（2007年10月1日～2008年1月31日）

・ 噴煙活動の状況（図2、図5）

噴煙活動に特段の変化はなく、噴煙は白色、ごく少量で噴煙高度は概ね200m（最高高度は600m）で推移した。中岳第一火口からの二酸化硫黄放出量は、一日あたり概ね300tで推移した。

・ 地震、微動活動の状況（図2～4）

火山性地震は少ない状態で経過し、震源は主に中岳第一火口付近のごく浅い所に分布した。孤立型微動は200回前後で経過していたが、12月以降日回数が250回前後に増加し、1月29日以降は300回を超えている。火山性連続微動の振幅は小さな状態が続いている。

・ 中岳第一火口の状況（図4～7）

中岳第一火口の湯だまり量は10割の状態が続いているが、湯面が下がりやや減少傾向がみられる。湯だまりの表面温度は50℃前後の状態が続いており、湯だまり内では噴湯現象を観測したが、土砂噴出は観測されていない。中岳第一火口南側火口壁の温度は11月には最高の263℃となるなど上昇傾向が見られる。また、同火口壁で引き続き赤熱現象を観測しているが、局所的な現象と考えられる。

・ 地殻変動の状況（図8）

GPS連続観測では、各基線長にわずかに縮みの傾向が見られる。

・ 南阿蘇村吉岡の噴気地帯の状況（図9、図10）

南阿蘇村吉岡の噴気地帯の噴気はやや強い状態が続いており、引き続き噴気活動に注意が必要である。1月24日に実施した現地調査ではB2噴気孔には湯がたまり、約1mの土砂の噴出を確認した。

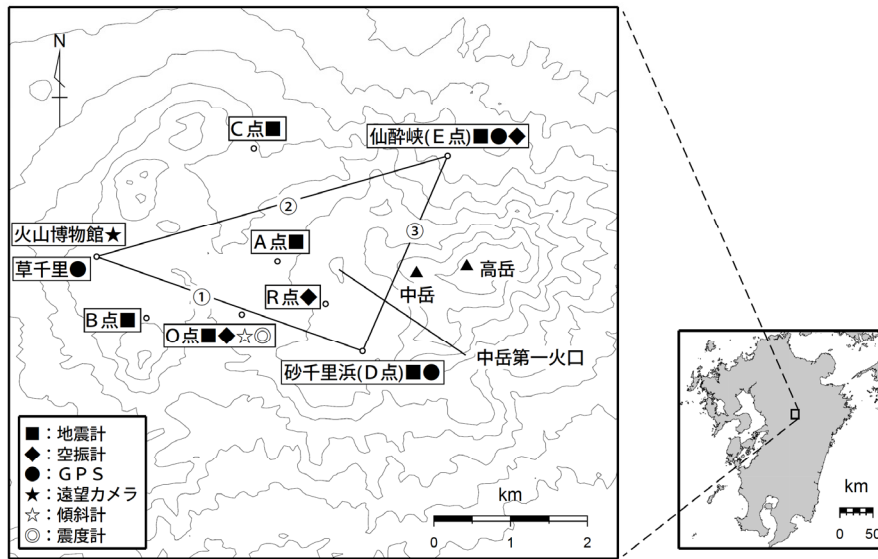


図1 阿蘇山 観測点配置図

Fig.1 Location map of permanent observation sites of JMA around Aso volcano.

この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 50m メッシュ (標高)」を使用した。

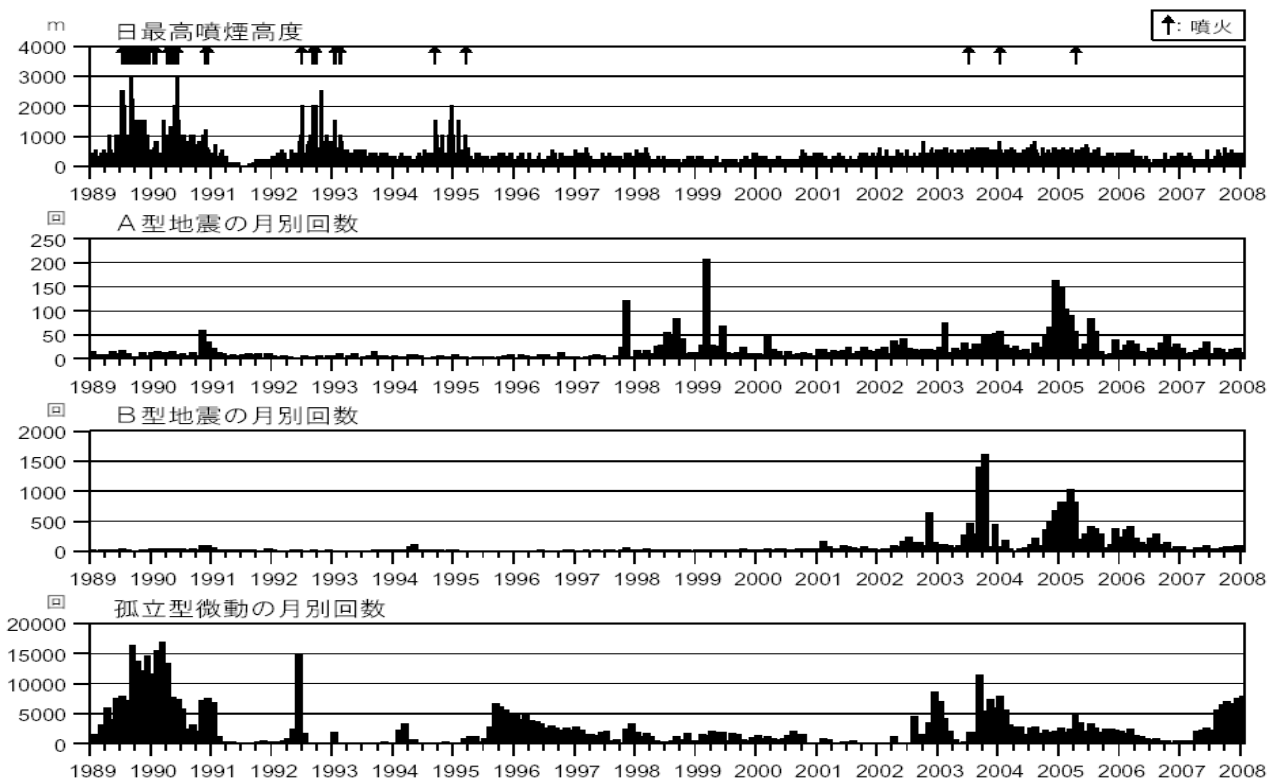


図2 阿蘇山 火山活動経過図(1989年1月1日～2008年1月31日)

Fig.2 Volcanic activities of Aso (January,1989—January,2008).

- ・火山性地震は少ない状態で経過した。
- ・孤立型微動は200回前後で経過していたが、12月以降日回数が250回前後に増加し、1月29日以降は300回を超えている。
- ※2002年3月1日から検測基準を変位波形から速度波形に変更した。

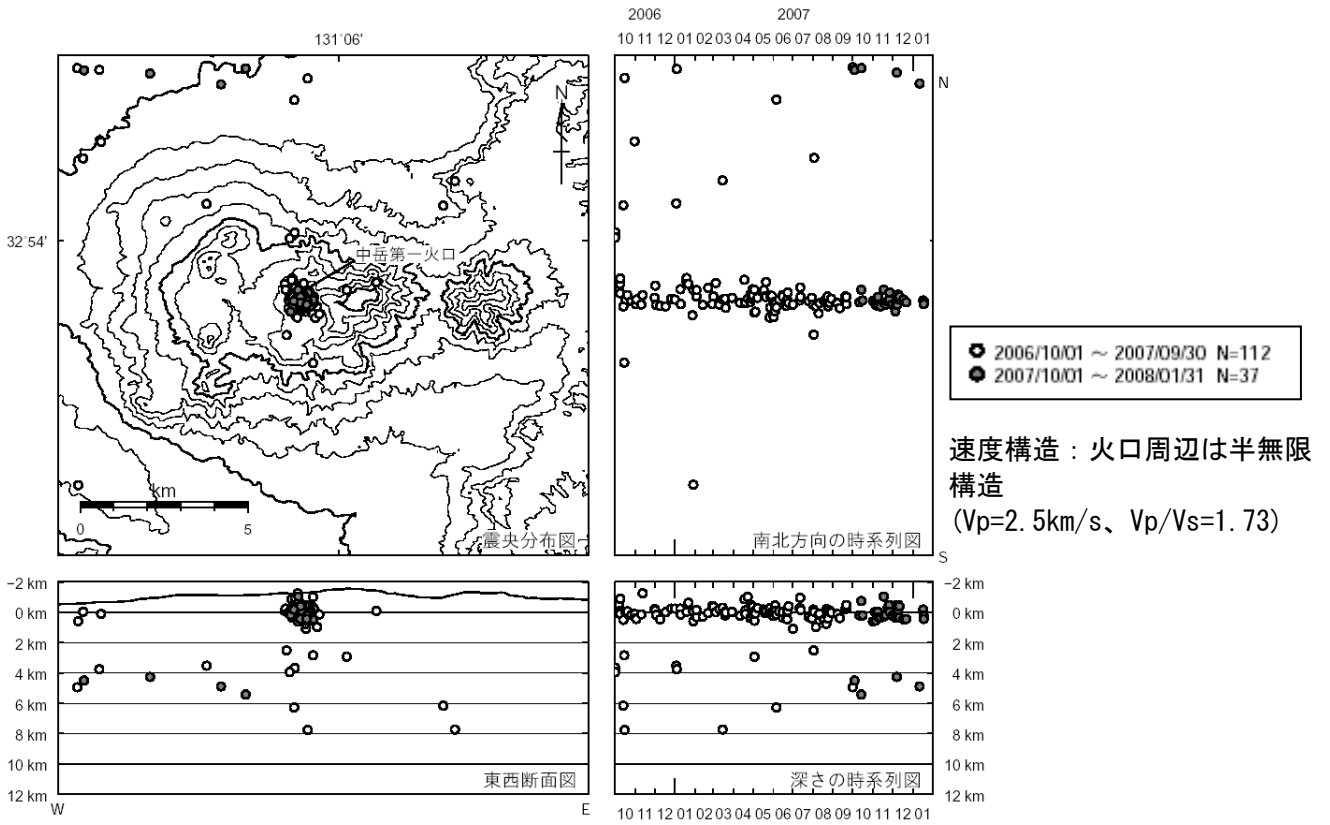


図3 阿蘇山 震源分布図(2006年10月1日～2008年1月31日)

Fig.3 Hypocenter distribution around Aso Volcano(October 2007–January 2008).

Top left: Hypocenter distribution. Top right: Space-time diagram(N-S).

Bottom left: Cross section diagram(E-W). Bottom right: Depth-time diagram.

火山性地震の震源は、主に中岳第一火口付近のごく浅い所に分布した。  
 この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 50mメッシュ (標高)」を使用した。  
 この資料作成にあたっては、気象庁のデータの他、京都大学のデータを使用しています。

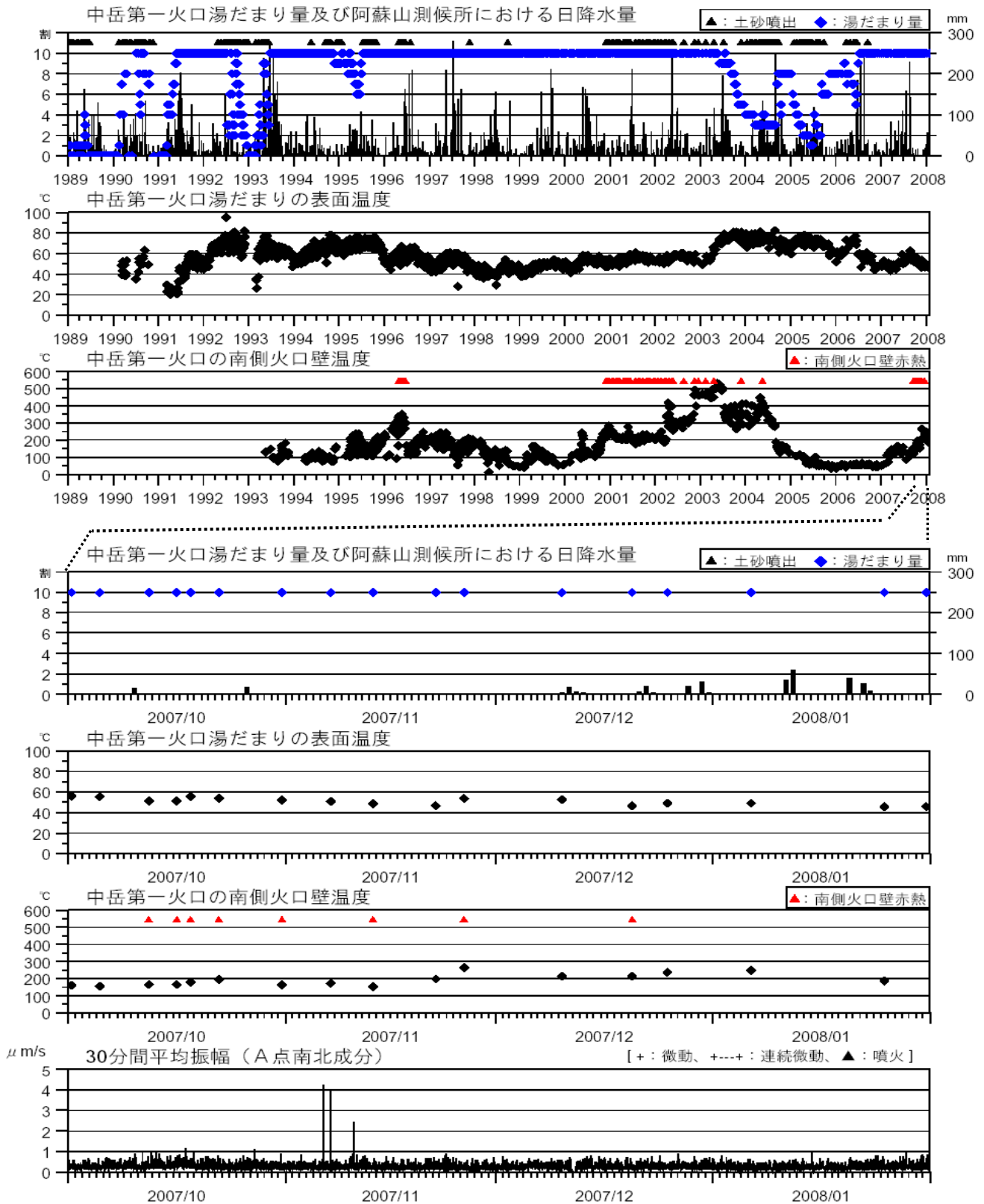


図4 阿蘇山 火山活動経過図(1989年1月1日～2008年1月31日)

Fig.4 Volcanic activities of Aso (January,1989 - January,2008).

- ・湯だまりの表面温度は50℃前後の状態が続いた。
- ・9月15日から、阿蘇火山博物館の火口カメラにより南側火口壁で赤熱が観測された。
- ・2006年9月14日以降、土砂噴出は観測されていない。
- ・火山性連続微動の振幅は小さい状態が続いている。

※図中、「▲：南側火口壁赤熱」は、現地観測または阿蘇火山博物館の火口カメラで確認した日を示す。

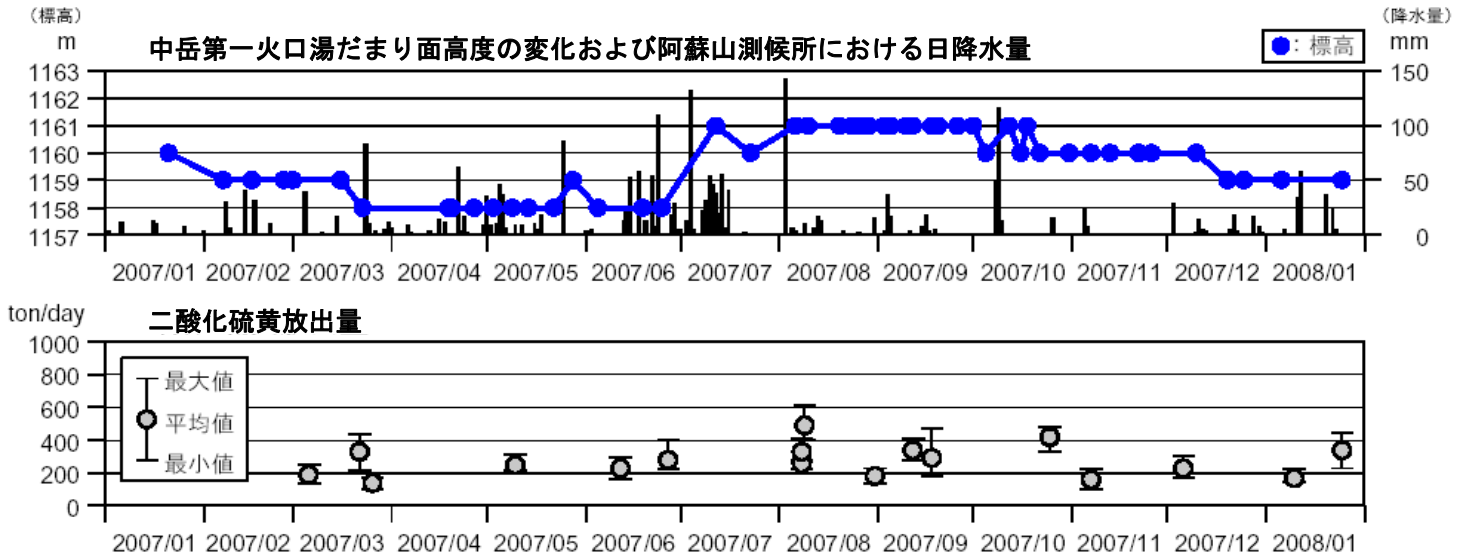


図5 阿蘇山 火山活動経過図(2007年1月～2008年1月)  
 Fig.5 Volcanic activities of Aso (January,2007–January,2008).

- ・湯だまりはやや減少傾向にある。
- ・中岳第一火口からの二酸化硫黄放出量は、一日あたり概ね300トンで推移した。

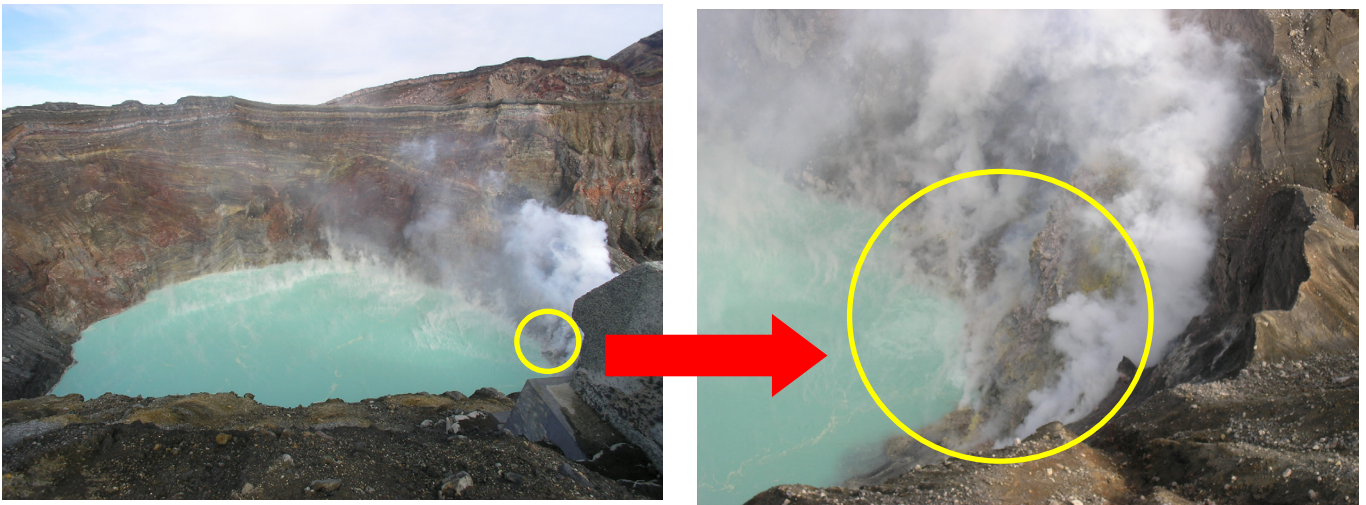


図6 阿蘇山 中岳第一火口の状況(2007年12月25日、南西側より撮影)  
 Fig.6 Visual image of Nakadake No.1 crater(December 25 2007).

- ・湯だまりの色は乳緑色で、湯だまり量は10割の状態が続いている。
  - ・湯だまり内で噴湯現象を観測したが、土砂噴出は観測されていない。
- ※黄色丸の部分は南側火口壁の赤熱現象が確認されている場所。

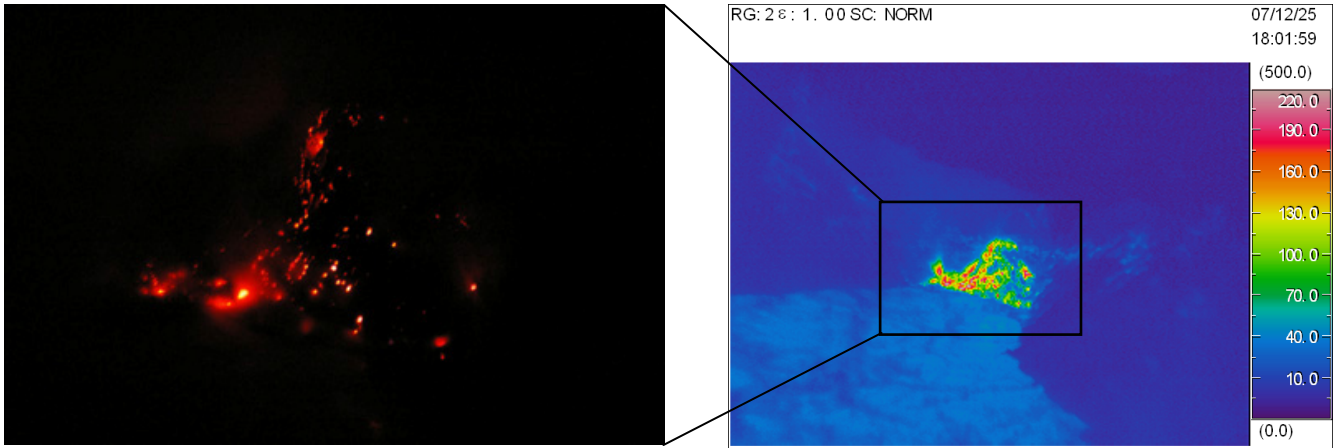


図7 阿蘇山 2007年12月25日 中岳第一火口南側の赤熱現象の写真と熱映像画像  
Fig.7 Thermal image of Nakadake No1 crater(December 25 2007).

- ・赤熱現象は南側火口壁でごく局所的にみられる。
- ・前回の火口壁赤熱は2000年11月29日～2004年8月13日まで確認された。

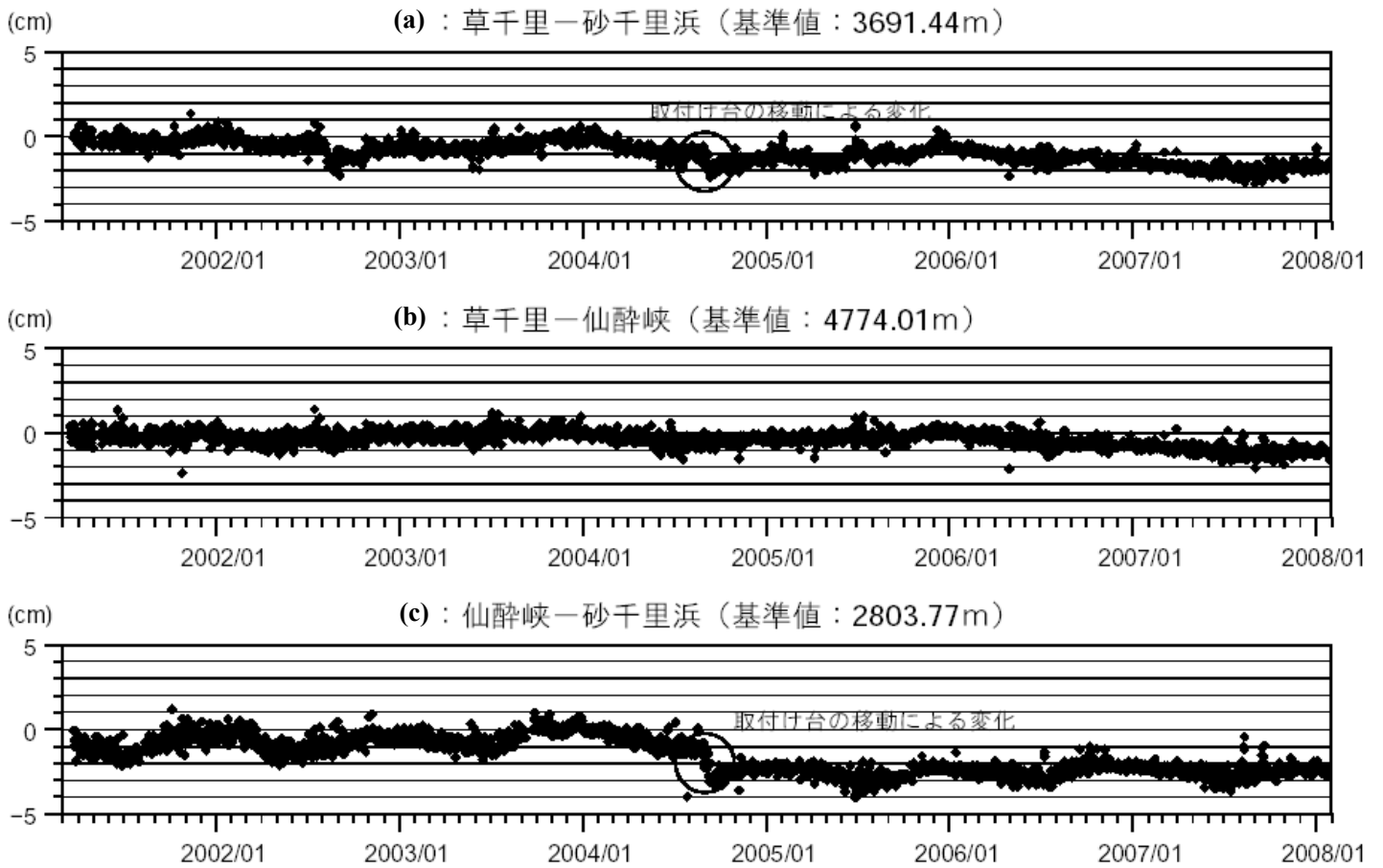


図8 阿蘇山 GPS 連続観測による基線長変化(2001年3月15日～2008年1月31日)  
Fig.8 Shows the baseline length variation of continuous GPS measurements from March 2001 to January 2008.

- (a) From referred station kusasenri to Sunasenriggahama.
- (b) From referred station kusasenri to Sensuikyo.
- (c) From referred station Sensuikyo to Sunasenriggahama

- ・各観測点間の基線長には、わずかに縮みの傾向が見られる。

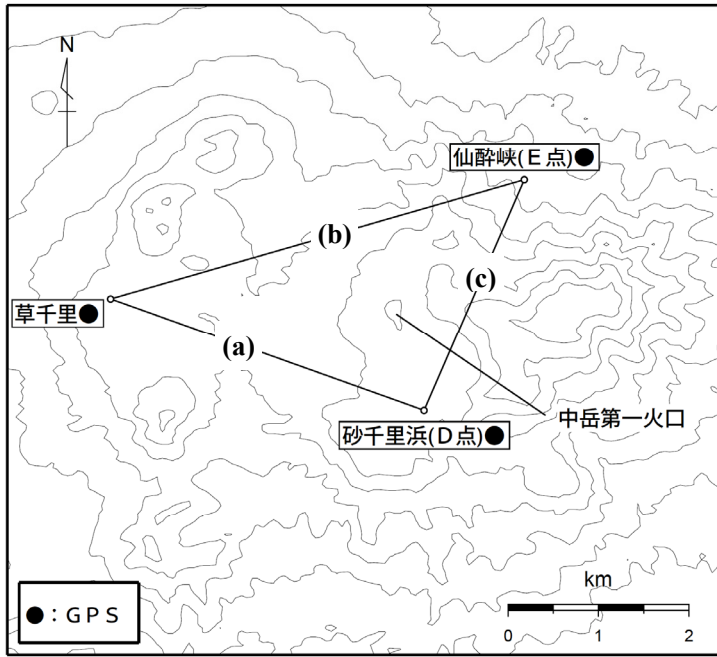


図9 阿蘇山 GPS 観測点配置図  
Fig.9 Distribution of GPS station at Aso volcano.

この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 50m メッシュ (標高)」を使用した。





(a) 南阿蘇村吉岡噴気地帯位置図

(b) 噴気地帯B周辺図 (2007年6月4日撮影)

図10 阿蘇山 南阿蘇村吉岡の噴気地帯図

Fig.10 Location map of the fume zones at Yoshioka, Minamiaso Village.

この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 25000 (地図画像)」を使用した。



(c) 2007年9月21日(東側から撮影)

(d) 2008年1月24日(東側から撮影)

図11 阿蘇山 南阿蘇村吉岡噴気地帯Bの状況

Fig.11 Location map of the fume zones at Yoshioka, Minamiaso Village.

(c) View from the eastern side (September 21 2007).

(d) View from the eastern side (December 24 2008).

- ・噴気孔B1が閉塞し噴気孔B2が開いた後も噴気量に変化は見られず、やや強い状態が続いている (\*B2はB1の西側5mに位置する)。
- ・8月以来たびたび土砂の噴出を観測していたが、1月24日に実施した現地調査でもB2噴気孔には湯がたまり約1mの土砂の噴出を確認した。